

## 日本植物病理学会報 第66巻

## 目 次

## 会長講演

植物ウイルス感染論の展開—主にキュウリモザイクウイルスについて……………江原淑夫………… 53

## 学会賞受賞者講演

土壌伝染性植物病原菌の生物防除に関する研究……………百町満朗………… 57

ハクサイ軟腐病の発生生態と生物防除に関する研究……………菊本敏雄………… 60

植物病原菌の宿主識別と宿主特異的毒素の作用機構に関する研究……………尾谷 浩………… 63

## 学術奨励賞受賞者研究要旨

宿主特異性決定における植物細胞壁の役割に関する研究……………木場章範………… 66

植物病原糸状菌の寄生性分化に関する分子系統学的研究……………草場基章………… 68

アブラナ科野菜に発生するべと病菌の寄生性分化に関する研究……………佐藤 衛………… 70

## 原 著

ナスすすかび病菌分生子の離脱と飛散……………山口純一郎・稲田 稔・松崎正文………… 5

*Phoma lycopersici* Cooke によるトマトの病害とその病名について……………窪田昌春・岸 國平・我孫子和雄………… 12

イネ苗いもちのケイ酸資材シリカゲル育苗土混和による発病抑制……………早坂 剛・藤井弘志・安藤 豊・生井恒雄………… 18

カナムグラ褐斑病の病理学的研究 (II) 生活史, 菌叢の培養特性および分生子と菌叢の薬剤に対する感受性……………今泉英理夏・小林享夫・中島千晴………… 23

異なる根頭がんしゅ病菌系統に対するバラ品種の抵抗性の差異……………周 林・矢吹純子・福井博一・松本省吾・影山幸二………… 29

*Choanephora cucurbitarum* によるベチュニアこうがいかび病 (新称)……………竹内 純・堀江博道………… 72

DMI 耐性ナスすすかび病菌の発生……………山口純一郎・稲田 稔・松崎正文………… 78

浄水ケーキに混入する *Pythium aphanidermatum* の発酵熱による殺菌……………大志万浩一・東條元昭・佐藤裕隆・角田真一・小堀英和………… 205

イネ苗立枯細菌病菌のため池水からの検出と水際雑草での越冬……………宮川久義………… 214

日本におけるスイカ果実汚斑細菌病の発生……………白川 隆・菊池繁美・加藤智弘・我孫子和雄・川合 昭………… 223

*Burkholderia gladioli* 特にその病原性喪失株によるイネ苗立枯細菌病の発病抑制……………宮川久義………… 232

## 短 報

ヤマノイモモザイクウイルス弱毒系統の選抜とその強毒系統に対する干渉効果……………藤 晋一・飯田孝則・中前 均………… 35

カンキツうどんこ病 (新称) の発生……………山田憲吾・牟田辰朗・徳永太蔵・我孫子和雄………… 40

鹿児島島のグラジオラスから得られたインゲンマメ黄斑モザイクウイルス分離株の病原性と血清学的性質……………和田行央・岩井 久・尾川宜広・荒井 啓………… 44

*Colletotrichum orbiculare* (Berkeley & Montagne) Arx によるメロン炭疽病 (病原菌追加)……………菅野博英・森脇丈治………… 85*Pseudomonas cichorii* によるカンパニユラ褐斑細菌病 (新称)……………白川 隆・萩原 廣………… 239

養液栽培のミツバに発生した灰色かび病……………岡田清嗣・草刈眞一………… 242

アンモニア処理によるイネもみ枯細菌病菌 (色素産生系統) の特異的検出……………宮川久義………… 246

メロン黄化えそウイルスの S RNA の特性……………加藤公彦・花田 薫………… 252

## 講 演 要 旨

平成 12 年度大会講演要旨…………… 91

## 平成 12 年度地域部会講演要旨

九州部会 2000年 9月20日 熊本市…………… 255

東北部会 2000年 9月28日~29日 鶴岡市…………… 263

関東部会 2000年10月 6日 つくば市…………… 271

関西部会 2000年10月12日~13日 金沢市…………… 281

北海道部会 2000年10月19日~20日 札幌市…………… 306

本会記事…………… 49, 191, 312

日本植物病理学会ニュース…………… 第1, 2, 3号

第66巻総目次…………… 第3号

INDEX…………… 第3号